桜島南岳昭和火口から2010年1月15日夕～16日朝にかけて噴出した軽石

2010年1月15日夕～16日朝の南岳昭和火口の噴出物中に軽石粒子が含まれていた．軽石質粒子の全岩組成は過去の南岳の噴出物中で最もSiO2に乏しく，南岳火口が最も活発に活動した1985年の噴出物とほぼ同じ組成である．

2010年1月16日午前に，桜島南岳南東山麓の有村溶岩展望台付近に，径1cm以下の灰白色の軽石粒子が散在しているのを確認した（図1）．前日16時ごろまでにはそのような粒子はなかったため，これらの軽石粒子は15日16時ごろから16日9時ごろまでの間に噴出・降下したものと思われる．軽石が認められた地域は桜島南東部の幅約1.5kmの範囲であった．軽石粒子は淡褐色で，ごく細かく発泡している（図2）．16日日中には赤熱した火山弾の放出も目撃されており，軽石の噴出とあわせて高温のマグマが直接噴出していることが推測される．

有村展望台で採取した軽石粒子の全岩組成は，過去の南岳噴出物の中では最もSiO2に乏しく（図3），1955年以降南岳火口がもっとも活発に活動した1985年の噴出物組成とほぼ同じである．また1946年に噴出した昭和溶岩(SiO2=61%)よりは有意にSiO2が乏しい．

図1
1月16日　桜島口国道歩道上に散在していた軽石粒子．右側の4粒は石質岩片．

図2
軽石粒子の拡大．粒子直径は約6mm．
（水洗したもの）

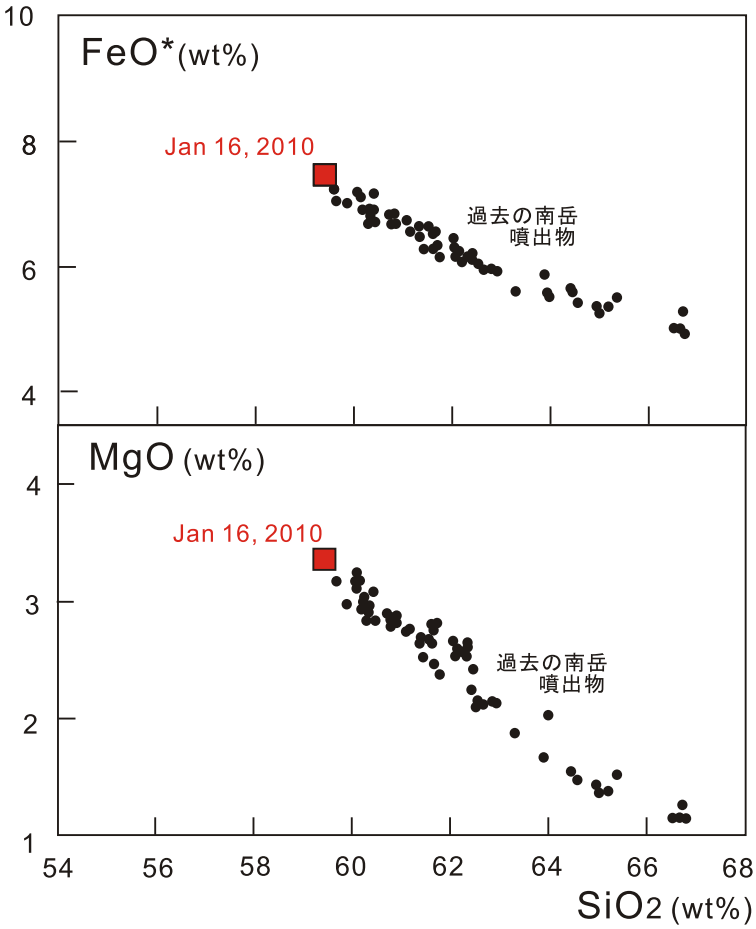

図3
有村展望台にて採取した軽石試料の全岩組成を，過去の桜島火山南岳噴出物の全岩組成グラフ上にプロットした．赤四角が今回採取した軽石の組成．100% 規格化して，全岩SiO2=59.4%.